

認定臨床微生物検査技師を目指して

著者	久米 賢, 藤原 美樹
雑誌名	神戸常盤大学紀要
号	10
ページ	126-126
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00000400/

1-1

HIV 感染モデルとしてのネコ免疫不全ウイルス

栃倉匡文

ネコ免疫不全ウイルス（FIV）はヒト免疫不全ウイルス（HIV）とはウイルス学的にも臨床病理学的にも類似点が多く、ネコ科の動物に HIV 感染で見られるようなエイズ様症状を引き起こすことが知られていますが、HIV 同様、現在までのところ、根本的な治療法は確立されていません。FIV は世界中に広く流行しており、家ネコの感染率は米国では 1～16%、ヨーロッパでは 2～30%、日本では数%～40%と報告されています。特に何らかの疾病を持ったネコに多いのが特徴です。

感染のメカニズムとしては FIV は HIV 同様、炎症形成に関与するケモカイン受容体 CXCR4 を副受容体として利用すること、ネコ CXCR4 とヒト CXCR4 のアミノ酸配列における相同性は 95%と高く、HIV はネコの、FIV はヒトの CXCR4 を利用できることが知られています。また、FIV のヒトへの感染例の報告はなく、ウイルスの取扱いに際しては HIV と違って特別な設備を必要としません。これらのことから、FIV は HIV 研究における理想的な動物モデルになると期待されます。

今回のフォーラムでは、最初に FIV 研究を始めるにあたっての経緯について触れ、比較的最近得られたデータについても紹介します。

1-2

認定臨床微生物検査技師を目指して

久米 賢（ツカザキ病院 臨床検査科）
藤原美樹（ツカザキ病院 臨床検査科）

認定臨床微生物検査技師とは認定臨床微生物検査技師制度協議会が設定する制度であり、微生物学検査に関する広い知識、優れた技術を有する感染症のエキスパートである。MRSA や CRE などの薬剤耐性菌やデング熱、ジカ熱などのウイルス疾患など様々な感染症が話題となっている今、認定臨床微生物検査技師はチーム医療の現場で専門の知識を生かして活動することが求められる。私自身、微生物検査の仕事をして 1 年未満の新米ではあるが、研修会や学会などに積極的に参加し、それにより知識が増えるだけでなく他の施設の認定臨床微生物検査技師と関わりを持つことが自身のモチベーションを上げてくれる。

現在目指すこの認定臨床微生物検査技師の受験には受験資格があり、臨床微生物学に関する学会発表が 3 回以上あることが必要なので、今年 5 月の近畿医学検査学会で初めて「グラム染色所見が迅速な対応を可能とした髄膜炎菌性髄膜炎の一症例」というタイトルで学会発表にも挑戦した。発表のスライドを作成するために髄膜炎菌の様々なことを調べたことは何より自分の知識となりスキルアップを実感できた。認定臨床微生物検査技師の資格は更新性であり、合格後も努力を継続しなければならない。認定資格を取得し、エキスパートとしての知識と技術で医師や看護師など他の医療従事者と連携し、感染症診療と感染制御に貢献していきたい。